

令和５年度 国立夜須高原青少年自然の家教育事業

夜須高原 竹を楽しむファミリーキャンプ①

『 竹の子掘りに家族で挑戦！』

【実施報告】

１．趣 旨 夜須高原の里地里山に及ぼす竹害の現状に触れ、竹を活用した自然体験や生活体験の中にＳＤＧｓの視点を取り入れ、家族で持続可能な社会づくりについて楽しく学ぶことを目的とする。また、活動を通して、親子の絆や参加者同士の交流を深める場を提供する。

２．主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

３．期 間 令和５年５月１３日（土）～１４日（日）

４．場 所 国立夜須高原青少年自然の家（福岡県朝倉郡筑前町三箇山 1103）

５．参 加 者 ２５名（８家族）

６．活動様子

６－１．竹細工作り



６－２．竹の子掘り



６－３．自然散策、振り返り（竹害について）



7. 感 想

①プログラムに関すること

- ・竹にどっぷりつかれる2日間楽しかったです。
- ・竹の子掘りも貴重な体験が出来てよかったです。おいしかったです。
- ・子どもに掘り方を教えてくれました。早朝からありがとうございました。
- ・竹のおわんを切るところが楽しかった。子どもたちだけでなく、親も夢中になって作りました。

②事業全体に関すること

- ・自分たちだけでできないことが、スタッフの方のおかげでできました。子どもたちの成長にもなりました。
- ・13:30 開始、11:30 終了では短いのではないかと思っていたが、色々と準備をしてくださっており、充実した内容だった。
- ・子どもたちはとっても楽しかったと笑顔たくさんの2日間でした。スタッフの方も優しく対応してくださりありがたかったです。

8. 成 果

本事業を通して、参加者は竹を楽しむとともに、夜須高原の森に及ぼす竹害の影響について考えることができた。竹の子を掘ったり、竹を活用したりすることが、森を管理し、守ることになり、よりよい森や水の循環につながることに気づくことができたのではないと思う。

竹細工作りでは、親子で協力し、一つのものを作り上げることで、親子の絆づくりにつながることができた。ナタや鋸を使う難しい作業ではあったが、積極的に子どもが取り組む姿が見られた。竹の子掘りでは、地域の方の協力を頂き、掘り方や切り方の指導を受けることで、安全に活動を行うことができた。子どもが見つけた竹の子を、親子で掘り上げた表情には、達成感や喜びを感じることができた。夜のレクリエーションでは、各ファミリーが自由に交流する時間につながることができた。

日頃体験できない自然体験活動の中で、親子ともに目を輝かせ、とても楽しそうな表情をしており、親子の絆や子どもたち一人ひとりの豊かな感情の醸成につながることができた。

9. 課 題

本事業の導入として、SDGsウォークラリーを行い、夜須高原が当面する課題について考える活動を設定していたが、雨天のため行うことができなかった。今回は振り返りの場面において、スライドを使用した説明に止まったので、次回はSDGsウォークラリーを通して、課題設定につなげる活動を実践する必要がある。また、季節に応じた魅力ある竹プログラムの開発においても、今後取り組む必要がある。

